

令和5年度

事業計画書

建学の精神

建学の精神

人間性に支えられた高度な工業技術者を広く学術の研鑽を通じて育成する

基本理念

人を育て技術を拓く（ひらく）

教育目標

豊かな人間性の錬成とすぐれた工業技術者の育成

教育方針

- 学生の個性を伸ばすきめ細かな教育の実現
- 産業界を支える自立した実務型技術者の育成
- 国際社会で、職場で尊敬され、頼りにされる技術者の育成
（基本教科の確実な修得・コンピュータに強い技術者の育成・個性化への対応）

使命・目的

工業に関する専門の学術と一般の学芸とを教授研究し、かつ、人格の形成と陶冶を図り、もって文化の向上に寄与する

令和5年度の事業計画

I 教育分野

1. 学生本位の教育改革の検討【新規】

本学を取り巻く社会情勢の変化に対応するとともに、学生の主体的な学びをより一層促進するため、大学院及び学部の教育改革に着手します。大学院では、本学の特長を最大限に活かした大学院となるよう、育成する人材像を明確化し、教育プログラムと入学者選抜のあり方について見直しを行います。学部の教育改革では、既存のコースやカリキュラムの改廃を含めた全体的な見直しを行い、学科や系を越えたクロスオーバー（越境）型プログラムの導入、DX・GX等の成長分野を牽引する人材育成など、学生の知的好奇心と社会の要請に応える本学ならではの教育となるよう検討を進めます。

2. 数理・データサイエンス教育プログラムとNITモノづくりデジタル人材育成の推進【継続】

令和4年度に文部科学省から認定を受けた「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度（リテラシーレベル）」に引き続き、その応用基礎レベルについての申請準備を行い、令和6年度の認定を目指します。また、デジタルデータを取り扱えるDX教育設備の導入を計画的に進め、実験・実習という体験を通してDX時代の設計から保全までの全体を見通せるデジタルマインドやスキルを持った実務型モノづくり人材の育成に取り組みます。

3. 教育の質保証に向けた学修成果等の可視化【継続】

学修者本位の教育を実現する観点から、学生自らが定量的に到達度を確認できるよう、導入済みポータルサイトの「履修状況」に加え、「将来の夢・目標」の活用を推進し、卒業時にディプロマサプリメントを発行する取り組みを進めます。これにより、教育の質保証の可視化を行うとともに、「将来の夢・目標」の利用によるガイダンス教員との普段の対話を通し、学修の現状とコース選択、将来のキャリアデザインや大学院進学など、学生の「ラーニング・コンパス（学びの羅針盤）」となる活動として再生します。

4. Well-being を目指す学生支援と就職支援の展開【新規】

With コロナを見据え、課外活動支援やインターンシップの推進を含む、新たな支援方策を企画・展開し、学生生活の活性化を目指します。学生の課外活動支援では、授業と連携した科学技術活動の高度化や未来工房等の活用を推進します。就職支援では、就職活動の早期化への対応と学生の意識改革を目指した「自由応募」へのチャレンジと、本学の特色である推薦制度の充実を柱としたハイブリッド型の就職活動支援を展開します。さらに、個人面談を重視した組織的取り組みにより、課題を抱える学生の早期把握に努めます。

5. IRによるPDCAサイクルの実質化【新規】

IR活動により、事務局各課が保有する入学者選抜情報（入口）、教務情報（教育）、就職情報（出口）を有機的に結合し、客観的データに基づく分析により教育の質と学生指導の向上を推進します。教育評価室を中心にIR体制を再構築し、内部質保証に関連するPDCAサイクルの実質化を図ります。

Ⅱ 研究・地域貢献分野

1. 地域・産学連携センターの機能強化【継続】

社会に求められる研究を推進することを第一とし、学内研究の活性化、外部資金の獲得及び地域・産業界との連携促進のため、センターの機能強化を図ります。具体的には、①研究所を中心とした研究成果の地域・産業界への発信、②科学研究費補助金等の増加策、③研究シーズの知財化推進策等を検討し、計画的に推進することにより、次期中期計画につながる地域・産学連携体制の整備を行います。

2. 研究所の再編による新しい研究コミュニティ・環境の醸成【新規】

地域・産学連携センターの下に設置している各研究所について、研究活動の提案に基づいた再編を行い、新しい研究コミュニティ・環境を醸成します。再編した新たな研究所では、大学院生の活用を視野に入れ、研究活動に基づく情報発信と研究成果の還元を行うことで地域貢献に努めます。

Ⅲ 管理・運営分野

1. 持続可能な大学運営を目指した学生募集戦略の策定【新規】

今後の18歳人口の更なる減少を見据え、持続可能な大学運営を目指した募集戦略を策定します。学生募集における推薦選抜と一般選抜等の役割と目標数を明確化し、それに基づいた募集活動を確立します。また、これまでの奨学金制度の効果を検証し、社会のニーズに応じた新たな制度を検討します。

2. 組織力向上と次期中期計画の策定【継続】

継続的な業務改善に取り組むとともに教職員の能力向上を目指した計画的かつ実践的なFD、SD、OJTに取り組み、組織力向上を図ります。また、大学の特色を活かした活動計画の企画立案を行うための教職協働組織を設置し、現在の中期計画(2019～2023年度)の成果を取りまとめ、次期中期計画(2024～2028年度)を策定します。

3. 危機管理マニュアルの拡充整備【継続】

危機管理に対する基本マニュアルに加え、すでに策定している事業継続計画(BCP)の見直しや自然災害や犯罪予告・テロへの対応マニュアル等を検討し、大学の事業継続と学修機会の確保並びに情報共有に努めます。

4. 計画的なキャンパス環境の整備と機器・システムの更新【新規】

学生の満足度を高める計画的なキャンパス環境の整備を促進します。更新が必要な機器・システム等を選定し、順次更新を実施します。なお、教育研究環境の整備に係る資金については、公的補助金等の獲得を目指します。また、学内の空きスペースの計画的利用の検討に着手します。

5. 施設・設備等の整備

- (1) 情報基盤設備更新
- (2) おばせキャンパス D 棟教室のデジタル機器更新
- (3) 小倉キャンパス教室のデジタル機器更新
- (4) おばせキャンパス L 棟（総合体育館）改修
- (5) おばせキャンパス R 棟（有隣館）改修
- (6) おばせキャンパス正門・東門ゲート改修

以上